

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
 TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL: <http://www.sairingi.com/>
 携帯URL: <http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter: @sairingi

平成31年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会 盛大に開催される

平成31年1月11日(金)「ラフレさいたま 櫛の間」において公益社団法人埼玉臨床検査技師会平成31年賀詞交歓会ならびに各賞受賞記念祝賀会が開催されました。来賓、会員、賛助会員合わせて208名の方々にご参加いただき今年も盛大な会となりました。会は矢作副会長の開会の挨拶にて始まり、つづいて神山会長から昨年、医療法等の一部を改正する法律の一部施行に伴う厚生労働省関係令整備に関する省令が施行され、病院・診療所等にて検体検査を行う場合、検査室の有無に係わらず精度管理責任者(医師又は臨床検査技師)を配置し標準作業書・試薬管理台帳等の書類を整備すると共に精度確保に関する基準が設けられたこと、また、検査の質は臨床検査技師が担保し、最終的には医療の恩恵を受ける患者さんに検査過誤等の不利益を与えないための重要な改正であるとのお話がありました。

来賓の祝辞を埼臨技名誉会員の原 繁一様より、埼臨技賛助会員を代表してアルフレッサ株式会社の松本聡夫様よりいただきました。引き続き来賓の方々の紹介が行われ、埼臨技名誉会員の五内川里子様のご発声で乾杯となり、楽しく、賑やかな歓談のひとつきを過ごしました。祝賀会の中では、各賞受賞者の方々の紹介が行われました。ここで改めて受賞者の方々をご紹介します。受賞者の皆様、おめでとうございます。

✿埼玉県公衆衛生事業功労者埼玉県知事表彰

三志奈 賢司 氏	埼玉医科大学病院
後藤 義也 氏	埼玉医科大学国際医療センター
三木 隆司 氏	獨協医科大学埼玉医療センター
永野 栄子 氏	獨協医科大学埼玉医療センター
松岡 優 氏	埼玉医科大学病院

✿埼玉県臨床検査技師会功労者表彰

津田 聡一郎 氏	平成29年度日臨技 関甲信支部・ 首都圏支部医学検査学会 学会長
----------	-------------------------------------

✿日本公衆衛生協会会長賞

伊丹 直人 氏	埼玉県立がんセンター
---------	------------

✿小島三郎記念技術賞

松下 誠 氏	埼玉県立大学
--------	--------

✿埼玉県臨床検査技師会優秀論文賞

飯野 望 氏	埼玉医科大学保健医療学部
--------	--------------



受賞者への花束贈呈があり名誉会員の砂川進様より受賞者への祝辞の後、各受賞者の方々から謝辞をいただきました。今回も多くの方が受賞され、来賓の方々を交えての記念撮影も華やかなものとなりました。楽しく賑やかな会も終焉に近づき、昨年12月2日に開催された第46回埼玉県医学検査学会学会長でありました鈴木英之様より学会盛会の御礼の後、第47回埼玉県医学検査学会の来住野修学会長より開催の案内と協力要請が行われました。最後は祝賀会らしく岡田副会長の一本締めで今年の会もお開きとなりました。ご出席いただきました皆様ありがとうございました。平成最後となる2019年が、皆様にとりましてよい年となりますようご祈念申し上げます。

(文責：濱田昇一)



初級・職能開発講習会を開催して

去る、1月13日(日)にさいたま赤十字病院にて平成30年度 初級・職能開発講習会を開催いたしました。本研修は卒後3年～10年の検査技師を対象とし、早い時期からチーム医療にも興味を持っていただき、多職種連携医療のなかで活躍できる検査技師を育成することを目的として日臨技および都道府県技師会共同主催として開催されています。

当日は3連休の真中の日曜日にもかかわらず21名の受講者が集まりました。午前中に日臨技代表理事会長である宮島喜文氏によるビデオ講演と日臨技代表理事副会長である横地常広氏の講演、午後は4つの班に分かれてグループワークを実施し、終了予定時刻を30分もオーバーするほどの活気があふれた研修会となりました。有意義な研修会を開催できたのも、埼臨技神山会長、岡田副会長、矢作副会長をはじめ、実務委員の皆様のおかげです。ありがとうございました。

(文責：神嶋敏子)

以下に受講者の代表としてグループワークのリーダーを務めた方の感想文を掲載します。



社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院
指田 進也



現在、当院においても検査技師が検査室以外でも活躍する場を増やし、検査技師の需要拡大に向けて取り組んでいるため、他院ではどのような取り組みをしているのか、何が障害となるのか、何を達成できたのかを学びたかったため、本講習に参加しました。

今回の講義を受けて、衝撃を受けた内容がありました。それは、今後の病院経営の中で、コスト削減やAI化の波を考慮すると、現状では病院で削減対象とされてしまう可能性が高いのが検体検査室の検査技師であるという事です。臨床検査技師として国家資格を持ち、病院で働いていれば安心と思っていましたが、職を失う可能性があるという現実にも感じました。ここまでの内容は消極的に捕らえてしまう部分が多くありましたが、その先のお話で、検査技師が持っている知識を活用すれば検査室の中だけではなく、院内の様々なところ、

さらには病院外でも活躍できるのが検査技師であること、そしてそれを求めてくれる医師がいることを知り、病院で働く医療従事者としてより充実感のある働きができるということがわかりました。現状を変化させなければいけないと負担に感じる部分もありましたが、検体検査室の外での業務を確立した先には、他者から必要とされる充実した仕事ができる職場があると考え、今後積極的に挑戦してみたいと思いました。

グループディスカッションの場では、他院や企業で働く検査技師と討論を行う中で、他の場所で抱えている課題を知ることができ、当院においても考えてみる良いきっかけとなりました。また、他の検査技師が実施している自分のまだできない、わからない内容が飛び交い、まだまだ未熟であることを改めて自覚し、今後の学習意欲向上となるいい刺激となりました。

今講習会の講師の先生方をはじめ、参加された各施設の検査技師の皆様、大変貴重なお話を聞けたことを深く感謝いたします。

春日部市立医療センター
舟橋 加奈子



今回講習会に参加させていただき、改めてコミュニケーションの大切さを実感しました。

午後のグループワークにてどの施設でも問題を感じる箇所が似ており、そこを改善していく為「私たちが始められそうなこと」を考えました。

- ①共有の業務のハードルを設定し、業務を覚えることによって部署間の応援を可能に。
- ②病棟や他部署用に「注意点」や「お願い」などのインフォメーションを作成し（写真やイラスト入りで）配布する。
- ③カンファレンスや勉強会に参加して行く。

など、質疑も含めて意見が活発に飛び交いました。普段話す機会のない他施設の方々と交流することができとても充実した講習会になりました。ありがとうございました。

深谷赤十字病院
渡辺 翔也



1月13日に行われた「初級・職能開発講習会」に参加させていただきました。

「医療現場が求める臨床検査技師の育成-多様なニーズに対応できる職能人としてのスキル-」の講演を受け、日常業務では聞けない内容でとても貴重な時間となりました。人口の減少・AIの発達など様々なことから今後検査技師の業務は大きく変化していくと予測され、その変化に対応していくために準備をする必要があると教えていただきました。専門性を高めつつ多能性を持った検査技師が必要なのではないかと感じました。病棟、在宅など業務を行う機会を増やしていく必要性があるとともに、人と接する事なども増えると予測され、医療人としてコミュニケーション能力の成長も必要だと感じる講演内容でした。

また、グループワークも行い他施設の方と意見を交換し合うことができ、とても充実した時間を過ごさせていただきました。

一般社団法人巨樹の会 新久喜総合病院
大内 輝



この度、平成30年度初級・職能開発講習会に参加させていただき、医療情勢の展望や臨床検査技師の立場など、日常業務の中では到底学ぶことのできない貴重な経験をさせていただきました。臨床検査技師として、今後、医療現場で活躍していくために自分たちは何をしていけばよいのか、具体的に考えて行動していかなければならないと感じました。

また、グループワークでは、医療現場のニーズにこたえる臨床検査技師になるための方法を議論しました。同年代の技師同士、自施設の課題や現状を共有する事もでき、他施設との良いつながりも持つことができました。

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 自己血・自己生体接着剤の基礎の基礎

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成30年11月20日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：基礎教科－20点

講 演 1：自己血輸血実施に伴う器材と使用方法について

講 師：西條 真理奈（テルモBC T株式会社）

講 演 2：自己生体接着剤の作成から使用まで

講 師：染井 俊彦（旭化成メディカル株式会社）

参加人数：会員53名

出席した研究班班員：山田攻 渡辺一儀 長谷川卓也 久保居由紀子 野呂光恵 小原佑太
伊藤佳代 小林真弓

研修内容・感想など

講演1では、貯血式自己血輸血で使用する器材（血液バッグ、重量式採血装置、チューブシーラー）の使用方法や自己血輸血で問題となる凝集塊について講演をしていただいた。自己血で凝集塊ができる要因として採血手技や患者状態（原疾患）がある。採血手技では、採血過多による抗凝固剤の量不足、採血中バッグの攪拌・振とう不足や採血時間の延長によって凝集塊が発生しやすくなる。患者側の原因としては妊婦、リウマチ、高血圧、高脂血症などが挙げられる。写真を用いて事例ごとに自己血バッグ内の凝集塊について解説をして頂けたことで、自己血バッグの観察ポイントを掴むことができた。改めて自己血採血の手技を見直す機会になった。

講演2では、生理的な血液の凝固機序を利用した組織接着剤である自己フィブリン糊について講演をしていただいた。作成方法には用手法と自己生体組織接着剤調整システム（CroSeal syste）（以下自動機器）を用いた方法がある。用手法は市販のトロンビンを使用しなければならず保険が適用されないが、自動機器は自己トロンビンを作成できるうえに保険が適応されているなどそれぞれの利点や欠点、また診療科（疾患）ごとの使用方法など分かりやすく説明して頂いた。特に自動機器を用いた自己フィブリン糊では、作成過程や実際に手術で使用している様子を動画で見ながら解説してもらえたことで容易に理解することができた。

今回自己血をテーマに普段聞くことができない内容もあり、有意義な研修会であった。

（文責：小林真弓）

テーマ 初心者・初級者形態セミナー

～ デジタル機器を用いて、症例を観てみましょう ～

主催 血液検査研究班

実施日時：平成30年12月16日 9時30分～16時30分

会 場：埼玉県立大学 南棟171血液学実習室、南334中講義室 点数：専門教科－20点

講 師：林 文明（シスメックス株式会 学術サポート課）

参加人数：会員31名 学生1名

出席した研究班班員：原誠則 星孝夫 網野育雄 軍司雅代 蔵光寛行 渋川絵美 中山智史
石井千晴

研修内容・感想など

今年は、初めて埼玉県立大学で開催させていただきました。寒い中、朝早くからご参加いただいた皆様、ご協力いただきました県立大学の関係者様、シスメックス株式会社の関係者様にお礼申し上げます。ありがとうございます。参加者の方から感想をいただきましたので、掲載させていただきます。

（文責：石井千晴）



JCHO 埼玉メディカルセンター

小林 友規

今回の研修会では、午前中に血液基礎の講義、午後は顕微鏡を使用しての形態観察の実習を行いました。講義では、標本中にスマッジ細胞やバスケット細胞が多数認められる場合は異常細胞出現の可能性が高い所見となることや、核クロマチンが成熟するにしたがい繊細から粗剛に変化していくのは、クロマチンが不活化され、凝集を起し、結節や塊状になるためである事などを説明していただきました。他に、血球の分化と産生、血球の増加・減少のバランス、固定・染色の原理、標本の観察ポイント、血算・生化のデータ判読のポイント、赤血球・白血球の形態異常なども説明していただきました。

午後の実習では、正常白血球の分類、幼若な骨髓球系細胞、異形リンパなどを観察しました。午前中の講義の内容を活用して形態観察に臨めたため、血球の分類に自信が持てました。

今回の研修会は基礎的な事を多く学ぶことができました。学んだ事を業務に活用し、役立てていきたいと思えます。

求人案内

○医療法人 大宮シィクリニック

採用条件：正職員、臨時職員（パート）

連絡先：048-645-1256 本部長 星野

○医療法人社団 哺育会 アルシェクリニック

採用条件：臨時職員（パート）

連絡先：048-640-6561 検査科 渡邊

○一般社団法人 大宮医師会メディカルセンター

採用条件：その他（非常勤職員）

連絡先：048-665-6559

○埼玉県立精神医療センター

採用条件：非常勤職員

連絡先：048-723-1111 総務職員担当 佐藤智史

○国立障害者リハビリテーションセンター病院

採用条件：臨時職員（パート）

連絡先：04-2995-3100 医事課 柴崎

○埼玉県済生会栗橋病院

採用条件：臨時職員（パート）

連絡先：0480-52-3611

内線 86403 人事課 横井

内線 86320 検査科 猪浦

○医療法人社団 協友会 メディカルトピア草加病院

採用条件：臨時職員（パート）

連絡先：048-928-3194 検査技術科 濱田

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

平成30年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第11回 理事会議事録

日 時：平成31年 1月10日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家 7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事) 神山 矢作 岡田 松岡 小山
濱本 奈良 長岡 小島 伊藤
菊池 長澤 神嶋 濱田 笹野
神戸 石井 山口 猪浦 鳥山
阿部

(監事) 遠藤

欠 席：(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は21名で、現在数21名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (平成30年12月14日～平成31年1月9日)

12月14日(金)・15日(土) 日臨技 災害派遣技師研修会：小山

12月15日(土) 会計ソフト入力作業：神戸

12月15日(土) 日臨技 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師試験監督：神山

12月15日(土) 日臨技 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師試験WG会議：神山

12月18日(火) 平成30年度第10回理事会：
神山、岡田、矢作、松岡、小山、濱本、奈良、長岡、小島、神嶋、菊池、長澤、伊藤、濱田、笹野、石井、神戸、山口、鳥山、猪浦、阿部、遠藤、細谷

12月18日(火) 賀詞交歓会打ち合わせ：
長澤、伊藤

12月25日(火) 賀詞交歓会事前準備：
長澤、伊藤、濱田

12月27日(木) 第4回編集委員会会議(メール会議)：鳥山、小山、神戸

12月31日(月) 年末年始事務所巡回：矢作

1月3日(木) 年末年始事務所巡回：小山

1月7日(月) 日本衛生検査所協会関東甲信越支部 平成31年賀詞交換会：神山

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) SBCCSG (埼玉乳がん臨床研究グループ) のCancerBoard (他・多職種合同会議) に矢作強志副会長、神嶋敏子理事、並木薫氏を推薦した。

2) 2018年度首都圏支部・関甲信支部人材育成研修会の開催通知が届いた。

タイトル 人材育成研修会
～未来へ向けて考えよう～

日 時 平成31年 2月2日(土)
16:00～18:30

会 場 ホテルプラザ菜の花
千葉市中央区長洲 1-8-1

神山会長、矢作副会長、小山事務局長、濱本事務局次長、神戸理事を派遣の予定。
3) 第4回埼玉県医師会新年会

～2019新春の集い～の開催通知が届いた。
日 時 平成31年 2月2日(土)
18:00～

会 場 パレスホテル大宮 4F
ロースルーム

さいたま市大宮区桜木町1-7-5

神山会長、岡田副会長、松岡副会長、山口学術部長を派遣の予定。

4) 平成30年度他団体との連携研修会について、案内があった。

タイトル 臨床検査技師のための臨床研究とCRCに関する研修会

日 時 平成31年 2月10日(日)
9:30～16:00

会 場 日臨技会館 3F 第1会議室
東京都大田区大森北4-10-7

タイトル 糖尿病療養指導における臨床検査技師の活躍のために

日 時 平成31年 3月3日(日)
9:30～16:15

会 場 日臨技会館 3F 第1会議室
東京都大田区大森北4-10-7

5) 日臨技より臨床検査技師広報用頒布品の取り扱いについて通知があった。

6) 日臨技より「臨床検査技師学校養成所指定規則の一部を改正する省令」による改正後の臨床検査技師学校養成所指定規則による新たな教育内容を受けて臨床検査技師国家試験に合格した者に関する留意事項について通知があった。

7) 日臨技より平成31年度都道府県技師会との関連事業(予定)について通知があった。

8) 12月14日(金)・15日(土) 日臨技 災害派遣技師研修会に埼臨技推薦で小山事務局長が参加した。

9) 臨葉協よりプロモーション地区会開催の案内があった。

10) リレー・フォー・ライフ ジャパン2018より後援のお礼が届いた。

11) 12月31日(月)、1月3日(木)に年末年始事務所巡回を行った。

12) 日本衛生検査所協会関東甲信越支部 平成31年賀詞交換会に神山会長が出席した。

13) 第10回埼玉輸血フォーラムから後援依頼があり、承諾した。

日 時 平成31年 3月23日(土)
13:30～17:00

会 場 さいたま市民会館うらわ
さいたま市浦和区仲町2-10-22

2 総務部

1) 「埼臨技だより」第475号、1月15日発行予定

3 事業部

- 1) 12月18日(火) 賀詞交歓会の打ち合わせをラフレさいたまと行った。
- 4 学 術 部**
- 1) 第4回編集委員会会議(メール会議)を開催した。過去の会議議事録も併せて報告する。
- 2) 第68回日本医学検査学会(山口県)一般演題座長として、6名を推薦した。
- 5 精度保証部**
- 1) 日臨技臨床検査データ標準化事業の体制見直しに伴う通知について基幹施設に文書を送付した。
- 6 会 計 部**
- 1) 平成30年度正会員費5名25,000円、入会金5名分5,000円、合計30,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より生涯教育推進研修会助成金50,000円×1研修会、合計50,000円の入金があった。
- 3) 石井印刷へ、埼臨技会誌Vol65、No2印刷代392,040円、埼臨技だより第475号印刷代233,280円、会誌発行仕分費24,041円を支払った。
- 7 精度管理委員会**
- 1) なし
- 8 一都八県会長会議**
- 1) なし
- 9 日臨技関甲信支部**
- 1) なし
- 10 日臨技**
- 1) なし
- 11 第46回埼玉県医学検査学会**
- 1) なし
- 12 第47回埼玉県医学検査学会**
- 1) なし

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(平成30年度分)
平成31年11月1日現在
会員数 3,040名[平成29年度会員数2,897名]
(新入会員 267名)

賛助会員 81社[平成29年度 86社]
承認された。

2 総務部

- 1) 特になし。

3 事業部

- 1) 特になし。

4 学術部

- 1) 第46回埼玉県医学検査学会優秀発表賞、学会長特別賞、埼臨技奨励賞の候補者について各候補者の受賞が承認された。

5 精度保証部

- 1) 特になし。

6 会計部

- 1) 特になし。

7 精度管理委員会

- 1) 特になし。

8 第46回埼玉県医学検査学会

- 1) 特になし。

9 第47回埼玉県医学検査学会

- 1) 特になし。

Ⅳ. 議題

1 事務局

- 1) 事務局運営規則、表彰審査選考規定・細則について

濱本事務局次長から事務局運営規則、表彰審査選考規定・細則について資料を基に発言があった。これを受けて理事会審議の結果、承認された。

- 2) 平成30年度臨時会員総会議案書について

小山事務局長より平成30年度臨時会員総会議案書について発言があった。これを受けて理事会審議の結果、承認された。

2 会計部

- 1) 平成30年度予算からの埼臨技事務所修繕・改修、新規取得資金の積み立てについて
松岡副会長より、平成30年度予算からの埼臨技事務所修繕・改修、新規取得資金の積み立てについて発言があった。理事会審議の結果、30年度予算より積み立てを行うことで承認された。

あ と が き

平成最後の新年を迎えたばかりとと思っていましたが、早くも1ヵ月が過ぎようとしています。あっという間に1ヵ月、1年が過ぎてしまいますが、この時間の経過が早く感じる理由は「ジャンナーの法則」で説明できるそうです。

“ジャンナーの法則：生涯のある時期における時間の心理的長さは年齢の逆数に比例する”
つまり年少者にはより長く、年長者にはより短く感じるそうです。ほかに初めての経験が多ければ時間の流れは遅くなるともいわれています。皆様、少しでも時間の流れを遅くするために、研修会などに参加して新しい知識や経験を積んでみませんか？ 埼臨技では数多くの研修会を用意して皆様の参加をお待ちしています。

(神嶋 記)

